

第1部. ドイツ葬送ミサの形式によるコンツェルト SWV 279

< KYRIE >

1. 先唱(T)

Nacket bin ich von Mutterleibe kommen.

裸で 私は ～から 母の身体 来た

私は裸で母の胎内から生まれ来た。

2. Soli(TTB)

Nacket werde ich wiederum dahinfahren,

裸で ～だろう 私は 再び 去る

私は再び裸で去るだろう、

der Herr hat's gegeben, der Herr hat's genommen,

主は 与えた 主は 取った

主は与えたものを取り去るのだ

der Name des Herren sei gelobet.

名は 主の 賛美されよ

主の名よ、賛美されよ

<以上、ヨブ記 1:21 >

3. 合唱

Herr Gott Vater im Himmel, erbarm dich über uns.

主 神 父 天の 憐れみたまえ 我らを

主なる神、天の父よ、我らを憐れみたまえ。

= Kyrie eleison

4. Soli(SST)

Christus ist mein Leben, Sterben ist mein Gewinn.

キリストは 私の命 死は 私の 利益

キリストは私の命であり、死は私の利益なのだ。

<フィリピン人への手紙 1:21 >

Siehe, das ist Gottes Lamm, das der Welt Sünde trägt.

見よ これが 神の 子羊 [関] 世の 罪を 取り去る

見よ、これが世の罪を取り去る神の子羊である。

<ヨハネ福音書 1:29 >

5. 合唱

Jesu Christe, Gottes Sohn, erbarm dich über uns.

イエス・キリスト 神の子 憐れみたまえ 我らを

イエス・キリスト、神の子よ、我らを憐れみたまえ。

= Christe eleison

6. Soli(ABB)

Leben wir, so leben wir dem Herren.

生きる 我ら それは 主のために

我らが生きる、それは主のために生きることである。

Sterben wir, so sterben wir dem Herren,

死ぬ 我ら それは 主のために

我らが死ぬ、それは主のために死ぬことである。

darum wir leben oder sterben,

故に 我らは 生きる 又は 死ぬ

それ故、生きていようが死んでいようが

so sind wir des Herren.

我らは 主のもの

結局、我らは主のものである、ということなのだ。

<ローマ人への手紙 14:8 >

7. 合唱

Herr Gott heiliger Geist, erbarm dich über uns.

主 神 聖霊 憐れみたまえ 我らを

主なる神、聖霊よ、我らを憐れみたまえ。

= Kyrie eleison

< GLORIA >

8. 先唱(T)

Also hat Gott die Welt geliebet,

そんなに 神は 世を 愛した

dass er seinen eingebornen Sohn gab.

～するとは 一人子として生まれた子を 与えた

そんなにも神は世を愛されたのだ、

彼の一人子として生まれた御子を与えたほどに。

9. Soli(SSATTB)

Auf dass alle, die an ihn gläuben,

～のため 皆が 〔関〕 彼を 信ずる an jn glauben(～に信を置く)

それは、御子を信ずる者皆が

nicht verloren werden, sondern das ewige Leben haben.

～ない 失われる ～ではなく 永遠の 命を 持つ

失われることなく、永遠の命を持つためである。

<以上、ヨハネ福音書 3:16 >

10. 合唱 ルター作コラール“ Nun freut euch lieben Christen g'mein ”(今ぞ喜べ、汝ら愛するキリスト者の輩よ) 第5節

Er sprach zu seinem lieben Sohn:

神は 語った 彼の 愛する 子に

神は彼の愛する子に語った。

die Zeit ist hie zu erbarmen,

時 ここに 憐れむ

「憐れみの時が来た。

fahr hin, mein's Herzens werte Kron

行け 私の 心の 貴重な 冠よ

行け、私の心の貴重な冠よ、

und sei das Heil der Armen,

～であれ 救済 貧しい人たちの

そして貧しい人々の救いとなり、

und hilf ihn aus der Sünden Not,

助けよ 彼らを 罪の 苦しみ

彼らを罪の苦しみから救い出せ、

erwürg für sie den bittern Tod

絞め殺せ 彼らのために 辛い 死を

彼らのために辛い死を絞め殺せ、

und lass sie mit dir leben.

～させよ 彼らを 汝とともに 生きる

そして彼らをして汝とともに生きさせよ。」

11. Soli(ST)

Das Blut Jesu Christi, des Sohnes Gottes,

血は イエス・キリストの 子の 神の

神の子、イエス・キリストの血は

machet uns rein von allen Sünden.

～にする 我らを 清く 全ての罪から

我らを全ての罪から清めてくれる。

<ヨハネ第1の手紙 1:7 >

12. 合唱 ヘルムボルト作コラール“ Nun lasst uns Gott, dem Herren, ”(今こそ主なる神に感謝を捧げん) 第6節

Durch ihn ist uns vergeben die Sünd,

彼によって 我らに 許される 罪は

キリストによって我らの罪は許され

geschenkt das Leben,

贈られる 命は

我らに命が与えられる。

im Himmel soll'n wir haben,

天 我らは 持つ

o Gott, wie große Gaben.

神よ 何と 大きな 贈り物を

1 3. Soli(SB)

Unser Wandel ist im Himmel,

我らの 生活は 天

von dannen wir auch warten

そこから 我らは また 待つ(2格を)

des Heilandes Jesu Christi, des Herren,

救世主(2格) イエス・キリスト(2格) 主(2格を)

welcher unsern nichtigen Leib verklären wird,

[関]主は 我らの くだらない 身体を 変容させるだろう

dass er ähnlich werde seinem verklärten Leibe.

[目的] 同じ になる 彼の 神々しい 身体と

天において我らは

おお神よ、何と大きな贈り物を得ることでしょう。

我らの生活は天にある。

そこから、我らはまた

救世主なる主イエス・キリストを待つ。

主は、我らのつまらない身体を変容させるだろう、

彼の神々しい身体と同じになるように。

<フィリピ人への手紙 3:20-21 >

※ルターが Wandel と訳した新約聖書のギリシア語は、本来は「国籍」と訳すべき単語のようである。しかし、人間の善意志を否定したルターは「人の国籍が天国にある」とは訳したくなかったのだろう。Wandel は変遷、生活態度、世渡り、通商などの意味がある単語だ。

1 4. 合唱

レオン作コラール“ Ich hab mein Sach Gott heimgestellt ” (我は我が事を神に委ね) 第3節

Es ist allhier ein Jammertal,

全くここは 嘆きの谷

Angst, Not und Trübsal überall,

不安 苦悩 悲嘆 至る所に

des Bleibens ist ein kleine Zeit,

留まる(時)は ほんの少しの時

voller Mühseligkeit,

満ちた 艱難辛苦

und wer's bedenkt, ist immer im Streit.

[関] 者は それを 思う 常に 争い

1 5. Soli(TT)

Wenn eure Sünde gleich blutrot wäre,

もし 汝らの 罪が 同じ 血の赤 であろうと

soll sie doch schneeweiß werden,

(罪は) しかし 雪の白 なる

wenn sie gleich ist wie rosinfarb,

同じ ~のよう 干しぶどうの色

soll sie doch wie Wolle werden.

羊毛

全くここは嘆きの谷、

至る所に不安・苦悩・悲嘆がある。

留まるのはほんの少しの時だが、

艱難辛苦に満ちており

それを思う者は常に争いの中にあることとなる。

もし汝らの罪が血のように赤かろうとも

しかしその罪は雪のように白くなるだろう。

もしその罪が干しぶどうの色のようであろうとも、

しかしその罪は羊毛のようになるだろう。

<イザヤ書 1:18 >

1 6. 合唱

ヘルムボルト作コラール“Nun lasst uns Gott, dem Herren,” (今こそ主なる神に感謝を捧げん) 第5節

Sein Wort, sein Tauf, sein Nachtmahl

彼の 言葉 洗礼 晩餐は

dient wider allen Unfall,

役立つ 〜に対して 災い

der Heilige Geist im Glauben

聖霊は 信仰

lehrt uns darauf vertrauen.

教える 我らに それに 信頼する・頼りにする

1 7. Solo(A)

Gehe hin, mein Volk, in eine Kammer

〜へ行け 我が 民族よ 〜の中へ 部屋

und schleuß die Tür nach dir zu,

閉めよ 扉を 後ろの zuschließen 閉める

verbirge dich einen kleinen Augenblick,

隠せ 汝を 少しの 時(瞬間) verbergen 隠す

bis der Zorn vorrübergehe.

〜まで 怒りが 通り過ぎる[接I]

1 8. Soli(SSB)

Der Gerechten Seelen sind in Gottes Hand

正しい者たちの 魂は 〜の中にある 神の 手

und keine Qual rühret sie an,

無い 苦悩は 触れる 彼らに rühren an 4格 〜に触れる

für den Unverständigen

〜(4格)にとって 思慮の無い者

werden sie angesehen, als stürben sie,

彼らは 見られる あたかも死んでいるように sterben 接II

und ihr Abschied wird für eine Pein gerechnet,

彼らの 別れは 〜として 苦痛 数えられる

und ihr Hinfahren für Verderben,

立ち去ること・死去 破滅

aber sie sind in Frieden.

しかし 彼らは 平安

キリストの言葉・洗礼・晩餐は

あらゆる災いに役立ちます。

聖霊は信仰の中で

それらを頼りにするよう教えてください。

darauf それ=1行目のキリストの言葉など

我が民よ、部屋の中に入れ、

そして汝の後ろの扉を閉めよ、

少しの間、身を隠していよ、

怒りが通り過ぎるまで。

<イザヤ書 26:20 >

正しい者たちの魂は神の手の中にあり、

いかなる苦悩も彼らに触れることはない。

思慮の無い者にとっては

彼らはあたかも死んでいるかのように見えるだろう、

そして彼らの告別は苦痛として数えられ、

彼らの死去は破滅と見なされるだろう。

しかし彼らは平安の中にいるのだ。

<知恵の書 3:1-3 >

※この知恵の書3:1は、ブラームス「ドイツ・レクイエム」第3楽章でも歌われる。

また当曲第3部でも自由に短縮化されて歌われる。

19. Solo(T)

Herr, wenn ich nur dich habe ,
主よ もし だけ あなた 持つ

so frage ich nichts nach Himmel und Erden.
尋ねる 何も ~について 天 と 地

※この節の最新の日本語訳聖書は「天では、あなたの他に誰が私を助けてくれようか。地には、あなたの他に愛するものは何もない。」となっている。上記のルター訳はヘブライ語原典とはかなり違うようだ。

主よ、もしあなただけ得られるならば

nach et3 fragen et3 のことを尋ねる(欲求の方向)
天や地のことについて何も尋ね求めはしない。

<詩篇 73:25 ※>

20. Soli(ATTB)

Wenn mir gleich Leib und Seele verschmacht',
もし 私の 同時 身体 魂 弱り果てる

so bist du Gott allzeit
ある 常に

meines Herzens Trost und mein Teil.
私の 心の なぐさめ 私の 取り分

※19-20曲の詩篇2節は当曲第2部モテットの歌詞でもある。

たとえ私の身体と魂がともに弱り果てようとも

神よ、あなたは常に

私の心の慰めであり、私の取り分である。
<詩篇 73:26 >

21. 合唱 ルター作コラール“ Mit Fried und Freud ich fahr dahin ” (平安と喜びをもって我は行く) 第4節

Er ist das Heil und selig Licht für die Heiden,
彼は 救い 至福の 光 ~にとって 異邦人

zu erleuchten, die dich kennen nicht und zu weiden,
照らす [関]人々を あなたを 知らない 家畜を牧養する

er ist seines Volks Israel
彼は 彼の民の イスラエル

der Preis, Ehr, Freud und Wonne.
賞賛 栄誉 歓喜 喜悅

※ルターは当曲第3部「シメオンの讃歌」の内容を4つに分けて4節のコラール“ Mit Fried und Freud ich fahr dahin ”を作詞した。

1. 死を喜びを以て肯定、2. 救世主との出会い、3. 全人類ために来た者、4. 異邦人には光、イスラエルには栄光
この21番はその第4節の歌詞なので、上記の内容となっている。

主は異邦人にとって、救いにして幸いなる光、

あなたを知らない人々を照らし養ってくださる。

主は、彼の民イスラエルの

賞賛、栄誉、歓喜、そして喜悅である。

22. Soli(BB)

Unser Leben währet siebenzig Jahr,
我らの 人生は ~だろう 70 年

und wenn's hoch kömmt, so sind's achtzig Jahr,
もしそれが 長くても それは 80年

und wenn es köstlich gewesen ist,
もしそれが 美味しい・貴重な ~だったとしても

so ist es Müh und Arbeit gewesen.
徒労 苦勞 ~だった[現完]

我らの人生は 70 年だろう、
währet=sein 1複接 II

もし長生きしても 80 年だ。

もしその人生が貴重なものだったとしても、

結局は徒労と労苦におわるのだ。
<詩篇 90:10 >

23. 合唱

ギガス作コラール“ Ach, wie elend ist unser Zeit ” (ああ、何とみじめな我らの時) 第1節

Ach, wie elend ist unser Zeit allhier auf dieser Erden,
ああ 何と 惨めな 我らの 時 この辺 ~の上 この 地

ああ、この地上での我らの時は何と惨めなことか、

gar bald der Mensch darnieder leit,
全く 容易に 人は 下へ 導く ※この2語うまく直訳できない

人はすぐに病に倒れ

※ daniederliegen 病に倒れる, daniederwerfen 病などが倒す

wir müssen alle sterben,
我らは 皆 死なねばならない

我らは皆、死ななくてはならない

allhier in diesem Jammertal ist Müh und Arbeit überall,
この辺 この 嘆きの谷 徒労 苦労 至る所

この嘆きの谷には、至る所に徒労と労苦があるのだ、

auch wenn dir's wohl gelingt.
たとえ もし あなたに 十分 成功する

たとえもし、あなたの人生が十分成功していても。

※詩篇90に基づいて作詞したコラール

24. Solo(T)

Ich weiß, dass mein Erlöser lebt,
私は 知る 私の 救世主は 生きている

私は知っている、私の救世主は生きている、と。

und er wird mich hernach aus der Erden auferwecken,
彼は ~だろう 私を 後で ~から 地 甦らせる

そして彼は、後に、私を地から甦らせるだろう。

und werde darnach mit dieser meiner Haut umgeben werden
(私は)~だろう その後 この 私の 皮膚 着せかける [受動]

私の身体のまま神を見るだろう。

<ヨブ記 19:25-26>

※最新の日本語訳聖書では「私は知っている。私を贖う方は生きておられ、後の日に塵の上に立たれる。私の皮膚がこのような剥ぎ取られた後、私は肉を離れ、神を仰ぎ見る。」となっている。ルター訳とヘブライ語聖書では、意味が全く異なり、特に後半は正反対の意味になっているようだ。人間性を否定的に考えていたルターが「人はこの身のまま神を見る」と作文しているのは不思議だ。

25. 合唱

ヘルマン作コラール“ Wenn mein Stündlein vorhanden ist ” (私の死ぬ時が来たらば) 第4節

Weil du vom Tod erstanden bist,
[理由] あなたが 死から 甦った[完了]

あなたが死から甦ったのですから、

werd ich im Grab nicht bleiben,
だろう 私は 墓に ~ない とどまる

私も墓の中にとどまることはないでしょう。

mein höchster Trost dein Auffahrt ist,
私の 最高の 慰め あなたの 昇天は

あなたの昇天は私の最高の慰めです、

Todsfurcht kannst du vertreiben,
死の恐れ ~できる あなたは 払いのける

あなたは死の恐れを払いのけることができます。

denn wo du bist, da komm ich hin,
なぜなら 所 そこに 私は 行く hinkommen

なぜなら、あなたがいる所、そこに私は行き、

dass ich stets bei dir leb und bin,
その結果 常に 生き 在る

それで私は常にあなたの側に行き、在るのですから。

drum fahr ich hin mit Freuden.
それ故 立ち去る ~と共に 喜び hinfahren 立ち去る、死去する

それ故、私は喜びとともに死に逝きましょう。

2 6 . Soli(SSATTB)

Herr, ich lasse dich nicht,
主よ 手放す ～ない

主よ、私はあなたを手放しません

du segnest mich denn.
祝福する ～ない限り、～でなければ

あなたが私を祝福してくださらない限りは。
＜創世記 32:27＞

2 7 . 合唱 ルター作コーラル“ Nun freut euch lieben Christen g'mein ”(今ぞ喜べ、汝ら愛するキリスト者の輩よ) 第 7 節

Er sprach zu mir:
彼は 言った 私に

主は私に言われた。

halt dich an mich,
私に頼りすがれ 再帰 sich an jn halten ～を頼る、～にすがる

「私に頼りすがっていろ、

es soll dir itzt gelingen,
事は お前に 今や 上手くいく

今や、事はお前にとって上手くいくであろう。

ich geb mich selber ganz für dich,
私は 与える 私自身を 全て あなたのために

私はお前のために、私自身の全てを与え、

da will ich für dich ringen,
[意志] 戦う

そしてお前のために戦おう。

den Tod verschlingt das Leben mein,
死を 飲み込む 生は 私の

私の生は死を飲み込み、

mein Unschuld trägt die Sünden dein,
私の 無実・潔白は 負う 罪を あなたの

私の無実はお前の罪を負う。

da bist du selig worden.
幸福な なった[完]

そしてお前は幸福になったのだ。」

第 2 部 . モテット (二重合唱) SWV 280

Herr, wenn ich nur dich habe,
主よ もし だけ あなた 持つ

主よ、もしあなただけ得られるならば

so frage ich nichts nach Himmel und Erden.
尋ねる 何も ～について 天 と 地

nach et3 fragen et3 のことを尋ねる(欲求の方向)
天や地のことについて何も尋ね求めはしない。

Wenn mir gleich Leib und Seele verschmacht',
もし 私の 同時 身体 魂 弱り果てる

たとえ私の身体と魂がともに弱り果てようとも

so bist du doch, Gott,
ある 常に

神よ、あなたは常に

allezeit meines Herzens Trost und mein Teil.
私の 心の なぐさめ 私の 取り分

私の心の慰めであり、私の取り分である。
＜詩篇 73:25-26＞

※第1部第19-20曲と同じ歌詞をChor/ I II の二重合唱で歌う。

この前半、詩篇73:25のルター訳がヘブライ語原典とはだいぶ異なっていることについては、そちらを参照。

第3部. シメオンの讃歌(カンテイクム) SWV 281

※第1グループの合唱と、第2グループの重唱との掛け合いになっている。

I. 合唱 <ルカ福音書 2:29-32> = シメオンの讃歌

Herr, nun lässest du deinen Diener	(この行、T 先唱)	主よ、あなたは今や、あなたの下僕をして
主よ 今や ~させる	下僕を	
in Frieden fahren,		安らかに逝かせてくれます、
平安のうちに 逝く		
wie du gesagt hast.		かつてあなたが語っていたように。
~のように 語っていた		
Denn meine Augen haben deinen Heiland gesehen,		なぜなら私の眼が、あなたの救い主を見たのだから。
なぜなら 私の 両目が	あなたの 救い主を 見た	
welchen du bereitet hast für allen Völkern, ein Licht,		その方は、あなたが全民族のために用意した光、
[関]	用意した[完] 全ての 民族	
zu erleuchten die Heiden		(すなわち、)異邦人を照らすための(光)
~するための 照らす	異邦人	
und zum Preis deines Volks Israel.		そしてあなたの民イスラエルの賞賛のための(光です)
賞賛	あなたの民イスラエルの	

II. Soli(SSB)

Selig sind die Toten, die in dem Herren sterben,	主にあつて死ぬ者たちは幸いである。
幸いである 死者たちは [関] ~において 主 死ぬ	
sie ruhen von ihrer Arbeit	彼らは労苦から解かれて休み、
彼らは 休む ~から 彼らの 労苦 ruhen von s-r Arbeit 仕事を休む	
und ihre Werke folgen ihnen nach.	その仕業は彼らについていく。
彼らの 仕業は ついていく 彼らの 後ろに	<黙示録 14:13(一部略)>
Sie sind in der Hand des Herren	彼らは主の手の中にあり
彼らは ~の中にある 手 主の	
und keine Qual rühret sie. ※	いかなる苦悩も彼らに触れることはない。
無い 苦悩は 触れる 彼らに	<知恵の書 3:1:(短縮化)>

第1グループ合唱が歌うのが、ルカ福音書「シメオンの讃歌」である。

信仰の厚いシメオンは「救世主に会うまでは決して死なない」とのお告げを受けていた。彼が神殿の境内に入った時、ちょうど幼子イエスを連れた両親も入ってきた。その際、シメオンが幼子イエスを抱いて、神を讃えた言葉がこの讃歌である。

一方、第2グループの重唱は、ソプラノ2名が天使セラフィム、バスは祝福された魂、とシュッツによって説明されている。後半の「知恵の書」の部分は第2部第18曲ではノーカットで歌われている。(※その歌詞の最後の部分、rühret sie an となるべきだが an がカットされてしまっている。また主語の Sie は Der Gerechten Seelen= 正しき者たちの魂である。)

また前半の「黙示録」部分、後半の「知恵の書」部分とも、ブラームスの「ドイツ・レクイエム」でも歌われている。

「黙示録14:13」の全訳は次の通り。

また私は、天からの声がこう言うのを聞いた。「書き記せ、『今から後、主にあつて死ぬ死人は幸いである』。
御霊も言う「然り。彼らはその労苦を解かれて休み、その仕業は彼らについていく」。

ハインリヒ・シュッツ(1585-1672)

「ムジカーリッシェ・エクセクヴィーエン（音楽による葬送）」op.7, SWV279-281

シュッツはバッハのちょうど百年前に生まれた「ドイツ音楽の父」と言うべき存在である。

1609 年、ヴェネツィアに留学。聖マルコ大聖堂の作曲家・オルガニストであったジョヴァンニ・ガブリエリに師事し、複合唱様式やコンチェルト様式を学んだ。これらの様式は聖マルコ大聖堂特有の空間に由来する。この聖堂内では、別々の聖歌隊ないしは合奏団が、筋向いに相対することになるため、聖歌隊が互いに歌い交わすことで素晴らしい効果が得られるのだ。

ガブリエリの死後 1613 年にドイツに戻り、15 年からザクセン選帝侯のドレスデン宮廷楽団（現シュターツカペレ・ドレスデン、現存最古のオーケストラ）の指揮を任せられ、17 年には宮廷作曲家となった。よって劇音楽やバレエなども多く作曲したはずだが、それらはほとんど残っていない。

現存する彼の作品の大部分は宗教音楽である。ドレスデン聖十字架教会には彼のレリーフが掲げられており、当然指揮もしたであろうが、クロイツカントル（聖十字架合唱団指揮者）には就任しなかった。

1618 年に始まったルター派 vs カトリックの三十年戦争は、「Memento mori（死を忘れるな）」をモットーとするバロック時代を象徴する大事件であった。14 世紀同様この頃もまたペストが流行し、特にドイツでは世界史でいうところの「17 世紀の危機」の時代となった。シュッツも戦争中に多くの家族親族を亡くしている。

また戦争中の 1628 年から約 1 年、シュッツは再びヴェネツィアを訪れ、師ガブリエリの後をうけて聖マルコ大聖堂楽長となっていたモンテヴェルディの新しい音楽にも触れている。器楽伴奏を伴い単旋律で聴き取りやすく歌詞を歌うモノディ様式はまずオペラに用いられ、さらに彼の「聖母マリアのための夕べの祈り」によって宗教音楽にも用いられるようになっていた。

「音楽による葬送」には、シュッツがヴェネツィアで学んだ上述のさまざまな様式が用いられている。

この曲は、シュッツの故郷ケストリッツの領主ハインリヒ・ポストウムス・フォン・ロイス公(Heinrich Postums von Reuss)の葬儀のために作曲された。公はザクセン選帝侯の宮廷の賓客であり、シュッツの芸術のよき理解者でもあった。

死期を悟った公は、美しい装飾がなされた自分の棺に聖句とコラルの詞を刻み込ませ（右下の写真）、シュッツにそれらの詞を使って作曲するように依頼したのである。公の葬儀は 1636 年 2 月 4 日に行われた。

曲は 3 部に分かれている。

- ・第 1 部「ドイツ葬送ミサの形式によるコンツェルト」SWV.279
- ・第 2 部「モテット」SWV.280
- ・第 3 部「シメオンの讃歌（カンティクム）」SWV.281

現在それぞれに SWV 番号が付されているが、シュッツが生前にこの曲を出版した時はまとめて「作品 7」としていた。



第 1 部は、Kyrie・Gloria のみからなるルター派のミサ・ブレヴィスの形式による。重唱・独唱曲と合唱曲が交互に演奏される。

Kyrie 部分の合唱は父・子・聖霊それぞれへの呼びかけになっている。

しかし Gloria 部分は、ミサのそれとは内容が全く異なっている。曲の大半を占めるこの部分はシンメトリー構造になっている。また、続く第 2 部・第 3 部への伏線も張られている。次ページに Gloria 部分の構造を表で示す。

Gloria には、ソロ & 合唱の組が前後半 4 つずつあり、前後半の間にはソロのみの聖句 2 曲組がある。

前半最初と後半最後には、ルターの同じコラルが置かれている。同様に前半 2 番目と 4 番目には、ヘルムボルトの同じコラルが置かれている。音楽もそれぞれ同一の素材で作曲されており、聴く者にも枠構造が感知できる点は、ブラームスの「ドイツ・レクイエム」に通ずる技法である。

前後半の間の聖句 2 曲組のうち、第 18 曲の歌詞も、ブラームスが「ドイツ・レクイエム」第 3 楽章で用いた「正しき人の魂は主の手の中にあり」(知恵の書)である。

後半最初の組は、第 19-20 曲の歌詞が詩篇第 73 番で、これは第 2 部モテットの歌詞と同じになっている。続く第 21 曲合唱はルターのコラル「平安と喜びもて我往かん」の最終節だが、このコラルは第 3 部の合唱の歌詞である「シメオンの讃歌」をルターが敷衍して作ったものである

第 1 部 Gloria のシンメトリー構造

8	T	ヨハネ福音書 3:16	Also hat Gott die Welt geliebt,	
9	SST	"		
10	コラール	ルター	" Nun freut euch lieben Christen g'mein "	第 5 節
11	ST	ヨハネ第 1 書 1:7		
12	コラール	ヘルムボルト	" Nun lasst uns Gott, dem Herren, "	第 6 節
13	SB	フィリピ書 3:20-21		
14	コラール	レオン	" Ich hab mein Sach Gott heimgestellt "	第 3 節
15	TT	イザヤ書 1:18		
16	コラール	ヘルムボルト	" Nun lasst uns Gott, dem Herren, "	第 5 節
17	A	イザヤ書 26:20		
18	SS	知恵の書 3:1-3	Der Gerechten Seelen sind in Gottes Hand,	
19	T	詩編 73:25	Herr, wenn ich nur dich habe,	} → 第 2 部
20	ATTB	" 73:26	wenn mir gleich Leib und Seele verschmacht,	
21	コラール	ルター	" Mit Fried und Freud ich fahr dahin "	第 4 節 → 第 3 部
22	BB	詩編 90:10		
23	コラール	ギガス	" Ach, wie elend ist unser Zeit "	第 1 節
24	T	ヨブ記 19:25		} 3 拍子系 に変化する
25	コラール	ヘルマン	" Wenn mein Stündlein vorhanden ist "	
26	SSATTB	創世記 32:27	Herr, ich lasse dich nichts,	
27	コラール	ルター	" Nun freut euch lieben Christen g'mein "	第 7 節

第 2 部「モテット」は、詩編第 73 番を 2 つの 4 部合唱によるヴェネツィア仕込みの複合唱形式で壮麗に歌い上げる。

「主よ、あなたさえ得られるなら私は何も気にかけない。あなたはいつも私も心の慰め。」

第 3 部はコンチェルト形式。

第 1 グループ(合唱)は「シメオンの讃歌」を歌う。シメオンの物語は「ルカによる福音書」第 2 章 25-32 節に書かれている。

信仰の厚いシメオンは、救世主に会うまでは決して死なない、とのお告げを受けていた。彼が神殿の境内に入った時、ちょうど幼子イエスを連れた両親も入ってきた。その際、シメオンが幼子イエスを抱いて、神を讃えた言葉がこの聖歌である（ラテン語では「Nunc dimittis」）。

「主よ、今こそ私を安らかに去らせて下さいます。私は救い主を見たのですから。

その方は全民族のためにあなたが用意した異邦人を照らす光、イスラエルの賞賛の光。」

これと掛け合う第 2 グループは、シュッツによって、ソプラノ・ソロ 2 名が天使セラフィム、バスのソロは祝福された魂と説明されている。歌詞はブラームスのドイツ・レクイエム第 7 楽章と同じ「主にあって死ぬ者は幸せである」（黙示録 14:13）と、Gloria 第 1 部中盤で用いた「彼らは主の手中にあり...」（知恵の書）を歌う。

第 1 部と同じく終盤でいったん 3 拍子系に変化して、第 1 合唱が「異邦人を照らす光」と歌うと、第 2 グループも同じ音型で「主の手中にあり」と唱和する。最後、第 2 グループは sterben（死ぬ）と歌った後沈黙し、第 1 合唱が「イスラエルの誉れ」と歌って全曲が閉じられる。